

調査研究報告書

議員名 樋口秀洋

令和7年度の政務調査活動の主な活動実績は以下の通りです。

令和6年度に続き、農業地帯である安芸市と芸西村の今後の発展を研究するため、農業の付加価値化と田舎ゆへの活用方策を模索。農業と地場産業の発展はもちろん、更には「どっぷり田舎」の地域産業化など、多方面の先行地を調査。県会議員の業務として、一泊宿泊が困難なこともあり、すべてが日帰り調査となった。

県東部の経済的な遅れの一因は、これまで同様に高速道路の遅れにあり、その完成で地方が伸びるケースと、取り残されて産業が廃る二つの基本ケースの調査をすることで、各地域の対応策が県東部に生かすことができるかを調査研究した。

まず重点調査したのが、トレンドになっている個性的なミニ宿泊施設とミニ観光地である。さらに、他県の県立美術館など文化施設を調査して先進的なデザインなどを視察調査した。また条件不利地に建設された中型工業団地など、比較的小規模な予算規模で地域が対応できるケースを調査した。さらに高規格道安芸インターの完成を数年後に控えたことから道の駅も継続調査した。

高知市内の人出などの調査は外観的には観光客の増加で飲食街の賑わいが戻っているが、外国人観光客の増加がひととき目立つ。見知らぬ観光客に声掛けすると評価が高く、また多くの外国人は「ブルースカイ、グリーンシティ」と的確な評価をする。このような直接会話で、長短の観光問題も浮き彫りされた。

県道や河川調査は、自己確認しないと県の対処が遅れるので定期的に巡回調査している。